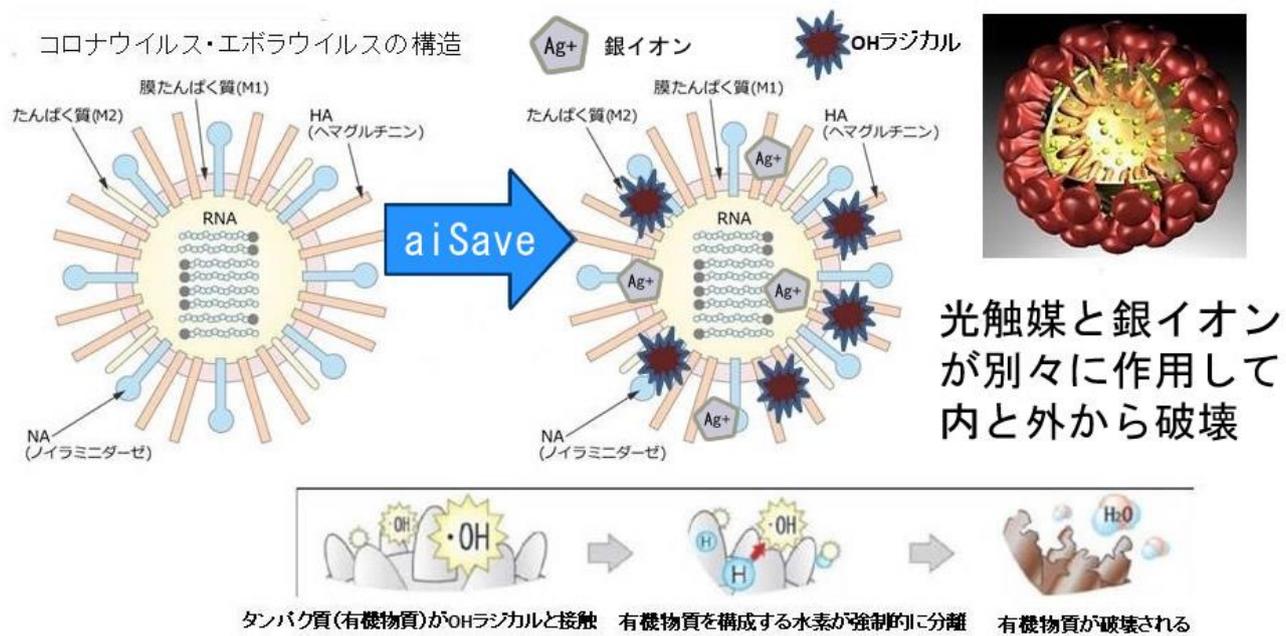


新型コロナウイルスに対するアイセーブ抗菌 CCFL ライトの有効性



ウイルスは、ゲノムがDNA又はRNAかによって二種類に大別され、カプシドが脂質二重膜からなるエンベロープで覆われている有膜ウイルスとエンベロープで覆われていない無膜ウイルスかによってさらに分類されます。具体的には、DNAタイプの有膜ウイルスにはヒトヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルス等、DNAタイプの無膜ウイルスにはアデノウイルス、B19ウイルス等、RNAタイプの有膜ウイルスにはインフルエンザウイルス、SARSコロナウイルス等、RNAタイプの無膜ウイルスにはノロウイルス、ポリオウイルス、エンテロウイルス等が含まれます。

アイセーブは新型コロナウイルスと同じRNAタイプの有膜ウイルスに分類されるインフルエンザウイルスに対して、第三者機関での耐菌性試験を行い、有効性を確認しています。この試験は離れたところに置いたインフルエンザウイルスに対する試験であり銀イオンの有効性を示しています。銀イオン Ag^+ は脂質膜に結合して細胞との膜融合過程を阻止し、脱殻阻害または複製阻害を起こさせます。通常ウイルスは細胞膜と融合した後、自己のDNA・RNAの二重鎖を分離することで増殖します。銀イオン Ag^+ がウイルスのDNA・RNAに侵入し二重鎖の橋渡しを形成してしまいます。その結果増殖の機能が抑制され、ウイルスの不活性化効果を引き起こします。

また光触媒により発生するOHラジカル(活性酸素)によりウイルスの不活性化が高いと考えます。これはウイルスの外側にある殻のタンパク質(有機物質)がOHラジカルに接触すると、有機物質を構成する水素が強制的に分離され、有機物質が破壊されるため、不活性化するものです。